

GA-A75M-DS2

ユーザーズマニュアル

改版 2001

12MJ-A75MDS2-2001R

Declaration of Conformity

We, Manufacturer/Importer,

G.B.T. Technology Trading GmbH

Address: Bullenkoppel 16, 22047 Hamburg, Germany

Declare that the product

Product Type: Motherboard

Product Name: GA-A75M-DS2

conforms with the essential requirements of the following directives:

☒ 2004/108/EC EMC Directive:

☒ Conduction & Radiated Emissions:	EN55022:2006+A1:2007
☒ Immunity:	EN55024:1988+A1:2001+A2:2003
☒ Power-line harmonics:	EN61000-3-2:2006
☒ Power-line flicker:	EN61000-3-3:2008

☒ 2006/95/EC LVD Directive

☒ Safety:	EN60950-1:2006+A11:2009
---	-------------------------

☒ 2011/65/EU RoHS Directive

☒ Restriction of use of certain substances in electronic equipment:	This product does not contain any of the restricted substances listed in Annex II, in concentrations and applications banned by the directive.
---	--

☒ CE marking



Signature: Timmy Huang

(Stamp) Date: Mar. 30, 2012 Name: Timmy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2, Section 2.1077(a)



Responsible Party Name: G.B.T. INC. (U.S.A.)

Address: 17358 Railroad Street

City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (626) 854-9338/ (626) 854-9326

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

Model Number: GA-A75M-DS2

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109 (a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any interference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: Ertic Lu

Date: Mar. 30, 2012

著作権

© 2012 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 著作権所有。

本マニュアルに記載された商標は、それぞれの所有者に対して法的に登録されたものです。

免責条項

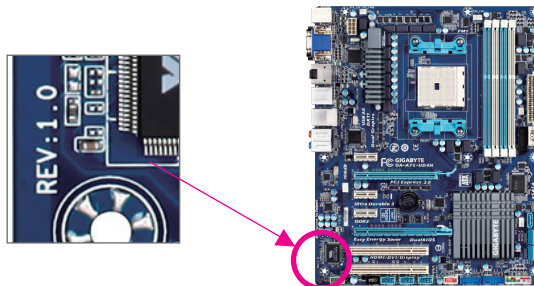
このマニュアルの情報は著作権法で保護されており、GIGABYTE に帰属します。このマニュアルの仕様と内容は、GIGABYTE により事前の通知なしに変更されることがあります。本マニュアルのいかなる部分も、GIGABYTE の書面による事前の承諾を受けることなしには、いかなる手段によっても複製、コピー、翻訳、送信または出版することは禁じられています。

- 本製品を最大限に活用できるように、ユーザーズマニュアルをよくお読みください。
- 製品関連の情報は、以下の Web サイトを確認してください：
<http://www.gigabyte.com>

マザーボードリビジョンの確認

マザーボードのリビジョン番号は「REV: X.X.」のように表示されます。例えば、「REV: 1.0」はマザーボードのリビジョンが 1.0 であることを意味します。マザーボード BIOS、ドライバを更新する前に、または技術情報をお探しの際は、マザーボードのリビジョンをチェックしてください。

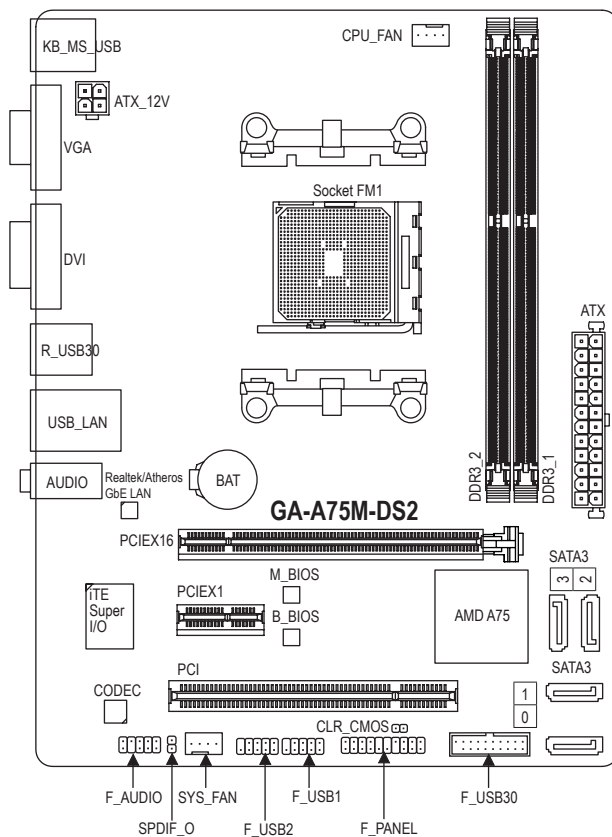
例：



目次

GA-A75M-DS2 マザーボードのレイアウト	5
GA-A75M-DS2 マザーボードブロック図	6
第 1 章 ハードウェアの取り付け	7
1-1 取り付け手順	7
1-2 製品の仕様	8
1-3 APU を取り付ける	10
1-4 メモリの取り付け	11
1-5 拡張カードを取り付ける	11
1-6 AMDデュアルグラフィックス設定のセットアップ	12
1-7 背面パネルのコネクタ	13
1-8 内部コネクタ	14
第 2 章 BIOS セットアップ	21
2-1 起動画面	21
2-2 メインメニュー	22
2-3 MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)	23
2-4 Standard CMOS Features	28
2-5 Advanced BIOS Features	29
2-6 Integrated Peripherals	30
2-7 Power Management Setup	32
2-8 PC Health Status	34
2-9 Load Fail-Safe Defaults	35
2-10 Load Optimized Defaults	35
2-11 Set Supervisor/User Password	36
2-12 Save & Exit Setup	36
2-13 Exit Without Saving	37
第 3 章 ドライバのインストール	37
第 4 章 付録	38
4-1 SATA ハードドライブの設定	38
4-2 規制声明	40

GA-A75M-DS2 マザーボードのレイアウト

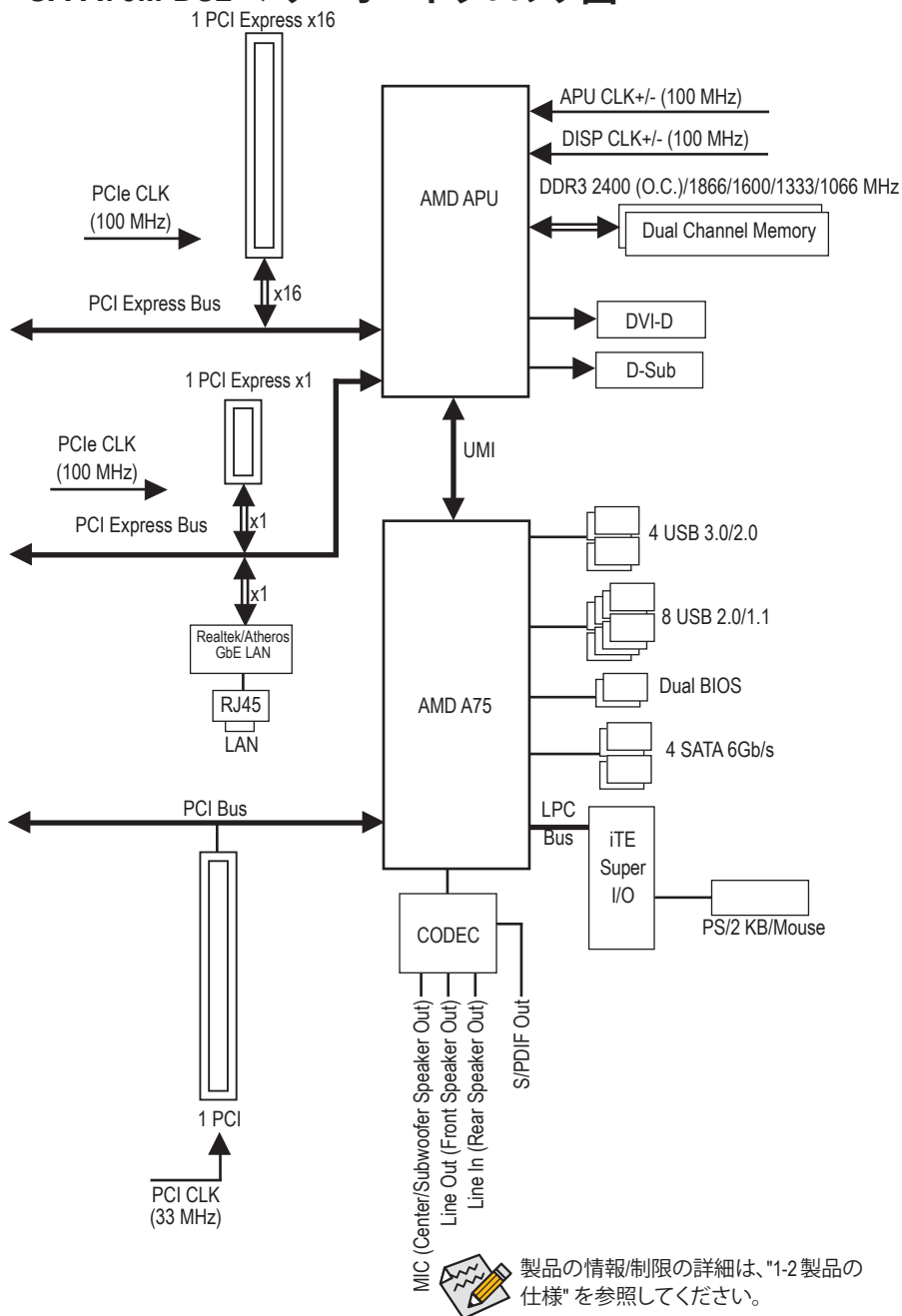


ボックスの内容

- ☒ GA-A75M-DS2 マザーボード
- ☒ マザーボードドライバディスク
- ☒ SATA ケーブル (x2)
- ☒ ユーザーズマニュアル
- ☒ I/O シールド

* 上記、ボックスの内容は参照用となります。実際の同梱物はお求めいただいた製品パッケージにより異なる場合があります。

GA-A75M-DS2 マザーボードブロック図



第1章 ハードウェアの取り付け

1-1 取り付け手順

マザーボードには、静電放電 (ESD) の結果、損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。取り付ける前に、ユーザーズマニュアルをよくお読みになり、以下の手順に従ってください。

- 取り付け前に、シャーシがマザーボードに適していることを確認してください。
- 取り付ける前に、マザーボードの S/N (シリアル番号) ステッカーまたはディーラーが提供する保証ステッカーを取り外したり、はがしたりしないでください。これらのステッカーは保証の確認に必要です。
- マザーボードまたはその他のハードウェアコンポーネントを取り付けたり取り外したりする前に、常にコンセントからコードを抜いて AC 電力を切ってください。
- ハードウェアコンポーネントをマザーボードの内部コネクタに接続しているとき、しっかりと安全に接続されていることを確認してください。
- マザーボードを扱う際には、金属リード線やコネクタには触れないでください。
- マザーボード、APU またはメモリなどの電子コンポーネントを扱うとき、静電放電 (ESD) リストストラップを着用することをお勧めします。ESD リストストラップをお持ちでない場合、手を乾いた状態に保ち、まず金属物体に触れて静電気を取り除いてください。
- マザーボードを取り付ける前に、ハードウェアコンポーネントを静電防止パッドの上に置くか、静電遮断コンテナの中に入れてください。
- マザーボードから電源装置のケーブルを抜く前に、電源装置がオフになっていることを確認してください。
- パワーをオンにする前に、電源装置の電圧が地域の電源基準に従っていることを確認してください。
- 製品を使用する前に、ハードウェアコンポーネントのすべてのケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
- マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようにしてください。
- マザーボードの上またはコンピュータのケース内部に、ネジや金属コンポーネントが残っていないことを確認してください。
- コンピュータシステムは、平らでない面の上に置かないでください。
- コンピュータシステムを高湿環境で設置しないでください。
- 取り付け中にコンピュータのパワーをオンにすると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、ケガにつながる恐れがあります。
- 取り付けの手順について不明確な場合や、製品の使用に関して疑問がある場合は、正規のコンピュータ技術者にお問い合わせください。

1-2 製品の仕様

 APU	- FM1 ソケット： - AMD Aシリーズプロセッサ/AMD E2シリーズプロセッサ - AMD Athlon™ II プロセッサ/AMD Sempron™ プロセッサ (最新の APU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。)
 チップセット	AMD A75
 メモリ	- 最大32GBのシステムメモリをサポートする1.5V DDR3 DIMM ソケット (x2) * Windows 32ビットオペレーティングシステムの制限により、4GB以上の物理メモリが取り付けられるとき、表示される実際のメモリサイズは4GBより少なくなります。 - デュアルチャンネルメモリアーキテクチャ - DDR3 2400(O.C.)/1866/1600/1333/1066 MHz メモリモジュールのサポート (サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトにアクセスしてください。)
 オンボードグラフィックス	- APU： - D-Subポート (x1) - DVI-Dポート (x1)、1920x1200の最大解像度をサポートします。 * DVI-Dポートは、アダプタによるD-Sub接続をサポートしていません。 (統合されたすべてのグラフィックスポートはホットプラグをサポートしません。コンピュータがオンになっているとき別のグラフィックスポートに変更する場合、まずコンピュータをオフにしてください。)
 オーディオ	- Realtek/VIA HD オーディオコーデック - ハイディフィニションオーディオ 2/4/5.1/7.1 チャンネル * 7.1チャンネルオーディオを有効にするには、HDフロントパネルオーディオモジュールを使用して、オーディオドライバを通してマルチチャンネルオーディオ機能を有効にする必要があります。 - S/PDIFアウトのサポート
 LAN	Realtek/Atheros GbE LAN チップ (10/100/1000 Mbit)
 拡張スロット ーフェイス	- PCI Express x16 スロット (x1)、x16 で動作 - PCI Express x1 スロット (x1) (すべてのPCI ExpressスロットはPCI Express 2.0規格に準拠しています。) - PCI スロット (x1)
 マルチグラフィックス ステクノロジー	- AMD デュアルグラフィックス技術のサポート * A シリーズの APU のみ AMD デュアルグラフィックスに対応。
 ストレージイン ターフェイス	- チップセット： - 最大4つのSATA 6Gb/sデバイスをサポートするSATA 6Gb/sコネクタ (x4) - RAID 0、RAID 1、RAID 10、および JBOD のサポート
 USB	- チップセット： - 最大8のUSB 2.0/1.1ポート (背面パネルに4つのポート、内部USBヘッダーを通して4ポートが使用可能) - 最大4のUSB 3.0/2.0ポート (背面パネルに2つのポート、内部USBヘッダーを通して2ポートが使用可能)
 内部コネクタ	24 ピン ATX メイン電源コネクタ (x1) 4 ピン ATX 12V 電源コネクタ (x1) - SATA 6Gb/s コネクタ (x4)

	内部コネクタ	◆ APU ファンヘッダ (x1) ◆ システムファンヘッダ (x1) ◆ 前面パネルヘッダ (x1) ◆ 前面パネルオーディオヘッダ (x1) ◆ S/PDIF アウトヘッダ (x1) ◆ USB 2.0/1.1 ヘッダ (x2) ◆ USB 3.0/2.0 ヘッダ (x1) ◆ CMOSクリアジャンパ (x1)
	背面パネルの コネクタ	◆ PS/2 キーボード/マウスポート (x1) ◆ D-Subポート (x1) ◆ DVI-Dポート (x1) ◆ USB 2.0/1.1ポート (x4) ◆ USB 3.0/2.0ポート (x2) ◆ RJ-45ポート (x1) ◆ オーディオジャック (x3) (ラインイン/ラインアウト/マイク)
	I/O コント ローラ	◆ iTE I/O コントローラチップ
	ハードウェア モニタ	◆ システム電圧の検出 ◆ APU/システム温度検出 ◆ APU/システムファン速度検出 ◆ APU 過熱警告 ◆ APU/システムファンの異常警告 ◆ APU/システムファン速度制御 * APU/システムファン速度コントロール機能がサポートについては、取り付けたAPU/システムクーラーによって異なります。
	BIOS	◆ 32 Mbit フラッシュ (x2) ◆ ライセンスを受けた AWARD BIOS の使用 ◆ DualBIOS™ のサポート ◆ PnP 1.0a、DMI 2.0、SM BIOS 2.4、ACPI 1.0b
	固有の機能	◆ @BIOS のサポート ◆ Q-Flash のサポート ◆ Xpress BIOS Rescue のサポート ◆ Download Center のサポート ◆ Xpress Install のサポート ◆ Xpress Recovery2 のサポート ◆ EasyTune のサポート * EasyTuneで利用可能な機能は、マザーボードモデルによって異なります。 ◆ Smart Recovery のサポート ◆ Auto Green のサポート ◆ ON/OFF Charge のサポート ◆ 3TB+ Unlock のサポート ◆ Q-Share のサポート

	バンドルされたソフトウェア	◆ Norton インターネットセキュリティ (OEM バージョン)
	オペレーティングシステム	◆ Microsoft® Windows 7/Vista/XP のサポート
	フォームファクタ	◆ マイクロ ATX フォームファクタ、22.5cm x 17.4cm

* GIGABYTE は、事前の予告なしに製品仕様と製品関連の情報を変更する場合があります。

1-3 APU を取り付ける

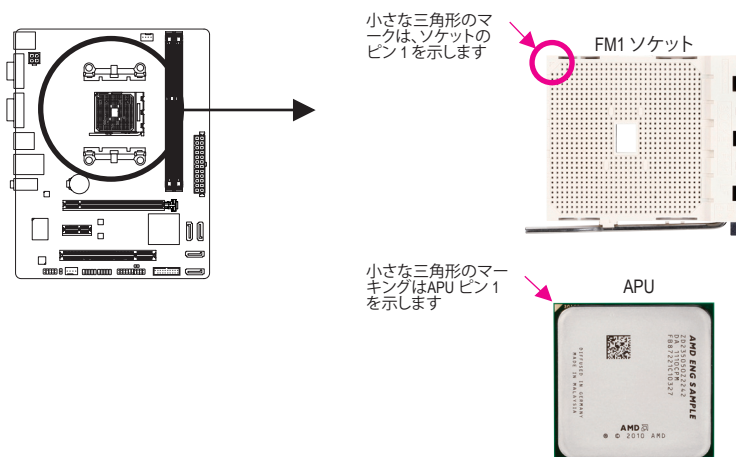


APU を取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- マザーボードが APU をサポートしていることを確認してください。
(最新の APU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、APU を取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- APU のピン 1 を探します。APU は間違った方向には差し込むことができません。
- APU の表面に熱伝導グリスを均等に薄く塗ります。
- APU クーラーを取り付けずに、コンピュータの電源をオンにしないでください。APU が損傷する原因となります。
- APU の仕様に従って、APU のホスト周波数を設定してください。ハードウェアの仕様を超えたシステムバスの周波数設定は周辺機器の標準要件を満たしていないため、お勧めできません。標準仕様を超えて周波数を設定したい場合は、APU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブなどのハードウェア仕様に従ってください。

APU を取り付ける

APU ソケットのピン 1 (小さな三角形で表示) と APU を確認します。



1-4 メモリの取り付け



メモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- マザーボードがメモリをサポートしていることを確認してください。同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。(サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトにアクセスしてください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、メモリを取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- メモリモジュールは取り付け位置を間違えぬようにノッチが設けられています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。メモリを挿入できない場合は、方向を変えてください。

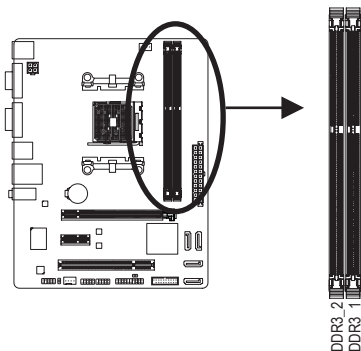
デュアルチャンネルのメモリ設定

このマザーボードには2つのDDR3 メモリソケットが装備されており、デュアルチャンネルテクノロジーをサポートします。メモリを取り付けた後、BIOSはメモリの仕様と容量を自動的に検出します。デュアルチャンネルメモリモードは、元のメモリバンド幅を2倍に拡張します。

2つのDDR3 メモリソケットが2つのチャンネルに分けられ、各チャンネルには次のように1つのメモリソケットがあります：

▶ チャンネル 0：DDR3_2

▶ チャンネル 1：DDR3_1



APU制限により、デュアルチャンネルモードでメモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください。

- DDR3 メモリモジュールが1つしか取り付けられていない場合、デュアルチャンネルモードは有効になりません。
- 2つのメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にしているとき、最適のパフォーマンスを発揮するために同じ容量、ブランド、速度、チップのメモリを使用するようにお勧めします。

1-5 拡張カードを取り付ける



拡張カードを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- 拡張カードがマザーボードをサポートしていることを確認してください。拡張カードに付属するマニュアルをよくお読みください。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、拡張カードを取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。

1-6 AMDデュアルグラフィックス設定のセットアップ

オンボードGPUを外部グラフィックスカードと組み合わせて使うことで、AMDのデュアルグラフィックス技術はAMDプラットフォームのきわめて先進的なディスプレイパフォーマンスを提供できます。次の項目では、Dual Graphics システムの構成に関して詳しく説明しています。

A. システム要件

- AMD Aシリーズプロセッサ
- Windows 7 オペレーティングシステム
- AMDデュアルグラフィックステクノロジーでサポートされたマザーボード(最新バージョンに更新されたBIOS装備)および正しいドライバ(オンボードグラフィックスドライバのバージョンが改版 8.881以上であることを確認してください)
- AMDデュアルグラフィックス技術をサポートするAMD Radeon HD 6000シリーズのグラフィックスカード (詳細については、AMDの公式Webサイトにアクセスしてください) と正しいドライバ

B. グラフィックスカードの取り付けとBIOSセットアップの設定

ステップ 1:

「1-5 拡張カードの取り付け」のステップを観察し、PCIEX16スロットにAMDデュアルグラフィックス技術をサポートするグラフィックスカードを取り付けます。モニターケーブルをグラフィックスカードに差し込み、コンピュータを起動します。

ステップ 2:

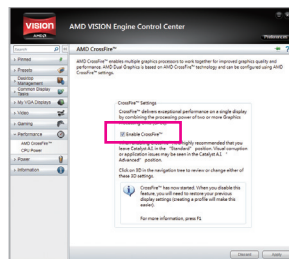
BIOSセットアップに入り、**Advanced BIOS Features**メニューの下で次の項目を設定します:

- **Internal Graphics Mode** を **UMA**。
- **UMA Frame Buffer Size** を **512MB**または**1024MB**に設定します。

設定を保存し、BIOS セットアップを終了します。コンピュータを再起動します。

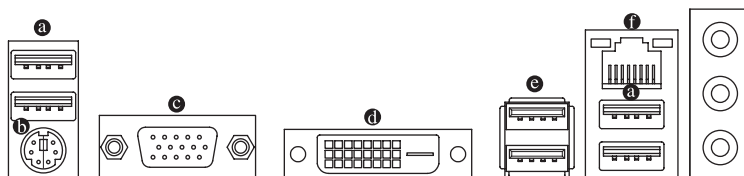
C. グラフィックスドライバを構成する

オペレーティングシステムにグラフィックスカードドライバを取り付けた後、**AMD VISION Engine Control Center**に移動します。**PerformanceAMD CrossFire™** を閲覧し、**Enable CrossFire™** を有効にするチェックボックスが選択されていることを確認します。



(注) チップセット、オンボードグラフィックス、および外部グラフィックスカードのドライバが適切に取り付けられていることを確認します。

1-7 背面パネルのコネクタ



① USB 2.0/1.1 ポート

USB ポートは USB 2.0/1.1 仕様をサポートします。USB キーボード/マウス、USB プリンタ、USB フラッシュドライブなどの USB デバイスの場合、このポートを使用します。

② PS/2 キーボードと PS/2 マウスポート

このポートを使用して、PS/2 マウスまたはキーボードを接続します。

③ D-Sub ポート^(注1)

D-Sub ポートは 15 ピン D-Sub コネクタをサポートします。D-Sub 接続をサポートするモニタをこのポートに接続してください。

④ DVI-D ポート^{(注1)(注2)}

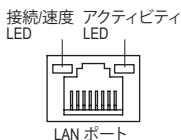
DVI-D ポートは DVI-D 仕様に準拠しており、1920x1200 の最大解像度をサポートします。(サポートされる実際の解像度は使用されるモニタによって異なります。) DVI-D 接続をサポートするモニタをこのポートに接続してください。

⑤ USB 3.0/2.0 ポート

USB 3.0 ポートは USB 3.0 仕様をサポートし、USB 2.0/1.1 仕様と互換性があります。USB キーボード/マウス、USB プリンタ、USB フラッシュドライブなどの USB デバイスの場合、このポートを使用します。

⑥ RJ-45 LAN ポート

Gigabit イーサネット LAN ポートは、最大 1 Gbps のデータ転送速度のインターネット接続を提供します。以下は、LAN ポート LED の状態を説明しています。



接続/速度 LED:

状態	説明
オレンジ	1 Gbps のデータ転送速度
緑	100 Mbps のデータ転送速度
オフ	10 Mbps のデータ転送速度

アクティビティ LED:

状態	説明
点滅	データの送受信中です
オフ	データを送受信していません

⑦ ラインインジャック (青)

デフォルトのラインインジャックです。光ドライブ、ウォークマンなどのデバイスのラインインの場合、このオーディオジャックを使用します。

⑧ ラインアウトジャック (緑)

デフォルトのラインアウトジャックです。ヘッドフォンまたは 2 チャンネルスピーカーの場合、このオーディオジャックを使用します。このジャックは 4/5.1/7.1 チャンネルのオーディオ構成でフロントスピーカーを接続するために使用することができます。

⑨ マイクインジャック (ピンク)

デフォルトのマイクインジャックです。マイクは、このジャックに接続する必要があります。



7.1 チャンネルオーディオを有効にするには、HD フロントパネルオーディオモジュールを使用して、オーディオドライバを通してマルチチャンネルオーディオ機能を有効にする必要があります。

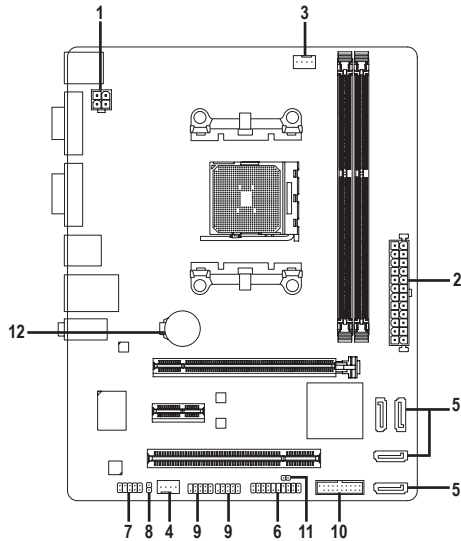


- 背面パネルコネクタに接続されたケーブルを取り外す際は、先に周辺機器からケーブルを取り外し、次にマザーボードからケーブルを取り外します。
- ケーブルを取り外す際は、コネクタから真っ直ぐに引き抜いてください。ケーブルコネクタ内部でショートする原因となるので、横に揺り動かさないでください。

(注 1) 統合されたすべてのグラフィックスポートはホットプラグをサポートしません。コンピュータがオンになっているとき別のグラフィックスポートに変更する場合、まずコンピュータをオフにしてください。

(注 2) DVI-D ポートは、変換アダプタによる D-Sub 接続をサポートしていません。

1-8 内部コネクタ



1) ATX_12V	7) F_AUDIO
2) ATX	8) SPDIF_O
3) CPU_FAN	9) F_USB1/F_USB2
4) SYS_FAN	10) F_USB30
5) SATA3 0/1/2/3	11) CLR_CMOS
6) F_PANEL	12) BAT



外部デバイスを接続する前に、以下のガイドラインをお読みください：

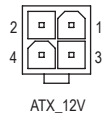
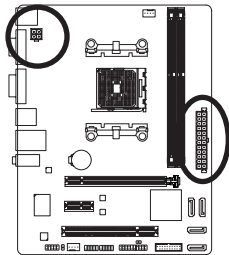
- まず、デバイスが接続するコネクタに準拠していることを確認します。
- デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータのパワーがオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。
- デバイスを装着した後、コンピュータのパワーをオンにする前に、デバイスのケーブルがマザーボードのコネクタにしっかり接続されていることを確認します。

1/2) ATX_12V/ATX (2x2 12V 電源コネクタと 2x12 メイン電源コネクタ)

電源コネクタを使用すると、電源装置はマザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクタを接続する前に、まず電源装置のパワーがオフになっていること、すべてのデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクタは、正しい向きでしか取り付けができないように設計されておりま
す。電源装置のケーブルを正しい方向で電源コネクタに接続します。12V 電源コネクタは、主に APU に電力を供給します。12V 電源コネクタが接続されていない場合、コンピュータ
は起動しません。

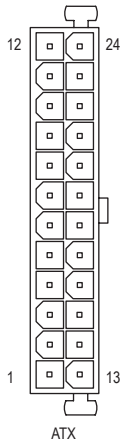


拡張要件を満たすために、高い消費電力に耐えられる電源装置をご使用になることを
をお勧めします (500W以上)。必要な電力を供給できない電源装置をご使用になると、システムが不安定になったり起動できない場合があります。



ATX_12V:

ピン番号	定義
1	GND
2	GND
3	+12V
4	+12V

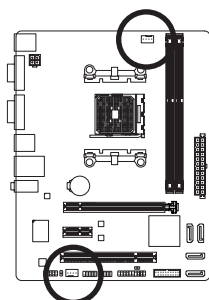


ATX:

ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	3.3V	13	3.3V
2	3.3V	14	-12V
3	GND	15	GND
4	+5V	16	PS_ON (ソフト オン/ オフ)
5	GND	17	GND
6	+5V	18	GND
7	GND	19	GND
8	電源良好	20	-5V
9	5VSB (スタンバイ +5V)	21	+5V
10	+12V	22	+5V
11	+12V (2x12 ピン ATX 専用)	23	+5V (2x12 ピン ATX 専用)
12	3.3V (2x12 ピン ATX 専用)	24	GND (2x12 ピン ATX 専用)

3/4) CPU_FAN/SYS_FAN (ファンヘッダ)

マザーボードには、4 ピン CPU ファンヘッダ (CPU_FAN) と 4 ピンシステムファンヘッダ (SYS_FAN) が搭載されています。ほとんどのファンヘッダは、誤挿入防止設計が施されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向に接続してください (黒いコネクタワイヤはアース線です)。マザーボードは APU ファン速度制御をサポートし、ファン速度制御設計を搭載した APU ファンを使用する必要があります。最適の放熱を実現するために、シャーシ内部にシステムファンを取り付けることをお勧めします。



CPU_FAN/SYS_FAN:

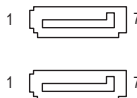
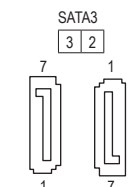
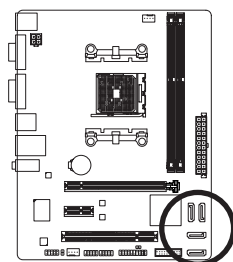
ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	検知
4	速度制御



- APUとシステムを過熱から保護するために、ファンケーブルをファンヘッダに接続していることを確認してください。過熱はAPUが損傷したり、システムがハングアップする原因となります。
- これらのファンヘッダは設定ジャンパブロックではありません。ヘッダにジャンパキャップをかぶせないでください。

5) SATA3 0/1/2/3 (SATA 6Gb/sコネクタ)

SATA コネクタはSATA 6Gb/s に準拠し、SATA 3Gb/s および SATA 1.5Gb/s との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。AMD A75チップセットRAID 0、RAID 1、RAID10、およびJBODをサポートします。RAIDアレイの構成の説明については、第4章「SATA/ハードドライブを構成する」を参照してください。



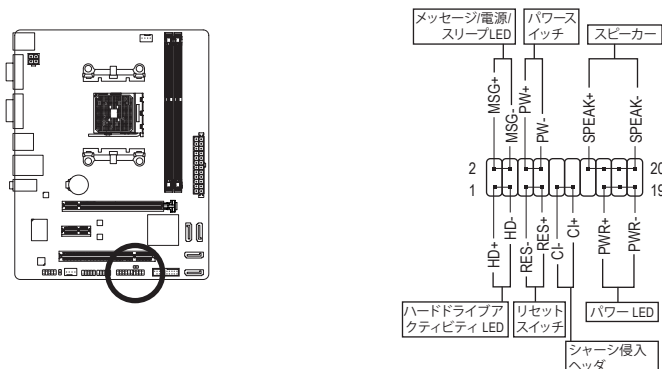
ピン番号	定義
1	GND
2	TXP
3	TXN
4	GND
5	RXN
6	RXP
7	GND



- RAID 0 または RAID 1 設定は、少なくとも 2 台のハードドライブを必要とします。
- RAID 10構成には、ハードドライブが4台必要となります。

6) F. PANEL (前面パネルヘッダ)

電源スイッチ、リセットスイッチ、スピーカーおよびシステム・ステータス・インジケータを下記のピン割り当てに従ってこのヘッダに接続します。ケーブルを接続する前に、+と-のピンに注意してください。



• MSG/PWR (メッセージ/電源/スリープLED)：

システムステータス	LED
S0	オン
S3/S4/S5	オフ

シャーシ前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。システムが作動しているとき、LED はオンになります。システムが S3/S4 スリープ状態に入っているとき、またはパワーがオフになっているとき (S5)、LED はオフになります。

• PW (パワースイッチ)：

シャーシ前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。パワースイッチを使用してシステムのパワーをオフにする方法を設定できます (詳細については、第 2 章、「BIOS セットアップ」、「電力管理、」を参照してください)。

• SPEAK (スピーカー)：

シャーシ前面パネルのスピーカーに接続します。システムは、ビーブコードを鳴らすことでシステムの起動ステータスを報告します。システム起動時に問題が検出されない場合、短いビーブ音が 1 度鳴ります。問題を検出すると、BIOS は異なるパターンのビーブ音を鳴らして問題を示します。

• HD (ハードドライブアクティビティ LED)：

シャーシ前面パネルのハードドライブアクティビティ LED に接続します。ハードドライブがデータの読み書きを行っているとき、LED はオンになります。

• RES (リセットスイッチ)：

シャーシ前面パネルのリセットスイッチに接続します。コンピュータがフリーズし通常の再起動を実行できない場合、リセットスイッチを押してコンピュータを再起動します。

• CI (シャーシ侵入ヘッダ)：

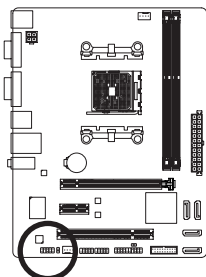
シャーシカバーが取り外されている場合、シャーシの検出可能なシャーシ侵入スイッチ/センサーに接続します。この機能は、シャーシ侵入スイッチ/センサーを搭載したシャーシを必要とします。



前面パネルのデザインは、シャーシによって異なります。前面パネルモジュールは、パワースイッチ、リセットスイッチ、電源 LED、ハードドライブアクティビティ LED、スピーカーなどで構成されています。シャーシ前面パネルモジュールをこのヘッダに接続しているとき、ワイヤ割り当てとピン割り当てが正しく一致していることを確認してください。

7) F. AUDIO (前面パネルオーディオヘッダ)

前面パネルのオーディオヘッダは、Intel ハイデフィニションオーディオ (HD) と AC'97 オーディオをサポートします。シャーシ前面パネルのオーディオモジュールをこのヘッダに接続することができます。モジュールコネクタのワイヤ割り当てが、マザーボードヘッダのピン割り当てに一致していることを確認してください。モジュールコネクタとマザーボードヘッダ間の接続が間違っていると、デバイスは作動せず損傷することがあります。



9 1
10 2

HD 前面パネルオーディオの場合: AC'97 前面パネルオーディオの場合:

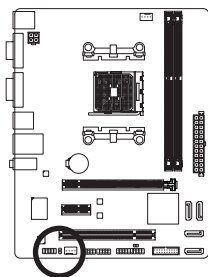
ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	MIC2_L	1	MIC
2	GND	2	GND
3	MIC2_R	3	MIC/ パワー
4	-ACZ_DET	4	NC
5	LINE2_R	5	ラインアウト(右)
6	GND	6	NC
7	FAUDIO_JD	7	NC
8	ピンなし	8	ピンなし
9	LINE2_L	9	ラインアウト(左)
10	GND	10	NC



- 前面パネルのオーディオヘッダは、標準で HD オーディオをサポートしています。
- オーディオ信号は、前面と背面パネルのオーディオ接続の両方に同時に流れています。
- シャーシの中には、前面パネルのオーディオモジュールを組み込んで、単一プラグの代わりに各ワイヤのコネクタを分離しているものもあります。ワイヤ割り当てが異なっている前面パネルのオーディオモジュールの接続方法の詳細については、シャーシメーカーにお問い合わせください。

8) SPDIF_O (S/SPDIFアウトヘッダ)

このヘッダはデジタルS/SPDIFアウトをサポートし、デジタルオーディオ出力用に、マザーボードからグラフィックスカードやサウンドカードのような特定の拡張カードにS/SPDIFデジタルオーディオケーブル (拡張カードに付属) を接続します。例えば、グラフィックスカードの中には、HDMIディスプレイをグラフィックスカードに接続しながら同時にHDMIディスプレイからデジタルオーディオを出力したい場合、デジタルオーディオ出力用に、マザーボードからグラフィックスカードまでS/SPDIFデジタルオーディオケーブルを使用するように要求するものもあります。S/SPDIFデジタルオーディオケーブルの接続の詳細については、拡張カードのマニュアルをよくお読みください。

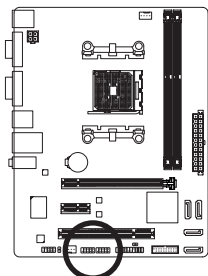


1

ピン番号	定義
1	SPDIF0
2	GND

9) F_USB1/F_USB2 (USB 2.0/1.1 ヘッダ)

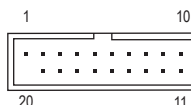
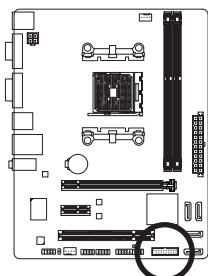
ヘッダは USB 2.0/1.1 仕様に準拠しています。各 USB ヘッダは、オプションの USB ブラケットを介して 2 つの USB ポートを提供できます。オプションの USB ブラケットを購入する場合は、販売代理店にお問い合わせください。



ピン番号	定義
1	電源 (5V)
2	電源 (5V)
3	USB DX-
4	USB DY-
5	USB DX+
6	USB DY+
7	GND
8	GND
9	ピンなし
10	NC

10) F_USB30 (USB 3.0/2.0 ヘッダ)

ヘッダは USB 3.0/2.0 仕様に準拠し、2 つの USB ポートが装備されています。USB 3.0/2.0 対応 2 ポートを装備するオプションの 3.5" フロントパネルのご購入については、販売代理店にお問い合わせください。



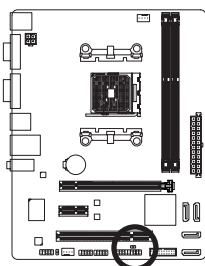
ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	VBUS	11	D2+
2	SSRX1-	12	D2-
3	SSRX1+	13	GND
4	GND	14	SSTX2+
5	SSTX1-	15	SSTX2-
6	SSTX1+	16	GND
7	GND	17	SSRX2+
8	D1-	18	SSRX2-
9	D1+	19	VBUS
10	NC	20	ピンなし



- IEEE 1394 ブラケット (2x5 ピン) ケーブルを USB ヘッダに差し込まないでください。
- USB ブラケットを取り付ける前に、USB ブラケットが損傷しないように、コンピュータの電源をオフにしてからコンセントから電源コードを抜いてください。

11) CLR_CMOS (CMOSクリアジャンパ)

このジャンパを使用して、CMOS値をクリアしたり（日付情報とBIOS設定）、CMOS値を出荷時設定にリセットします。CMOS値を消去するには、ジャンパキャップを2つのピンにかぶせて2つのピンを一瞬ショートさせるか、ドライバーのような金属物体を使用して数秒間2つのピンに触れてください。



□ □ オープン: Normal

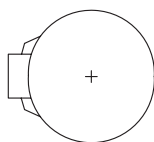
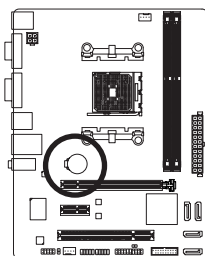
■ ■ ショート: CMOS値の消去



- CMOS値を消去する前に、常にコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CMOS値を消去した後、コンピュータの電源をオンにする前に、ジャンパからジャンパを必ず取り外してください。取り外さないと、マザーボードが損傷するおそれがあります
- システムが再起動した後、BIOS設定を工場出荷時に設定するか、手動で設定してください (Load Optimized Defaults 選択) BIOS 設定を手動で設定します (BIOS 設定については、第2章「BIOS セットアップ」を参照してください)。

12) BAT (バッテリー)

バッテリーは、コンピュータがオフになっているとき CMOS の値 (BIOS 設定、日付、および時刻情報など) を維持するために、電力を提供します。バッテリーの電圧が低レベルまで下がったら、バッテリーを交換してください。そうしないと、CMOS 値が正確に表示されなかったり、失われる可能性があります。



バッテリーを取り外すと、CMOS 値を消去できます：

1. コンピュータの電源をオフにし、電源コードを抜きます。
2. バッテリーホルダからバッテリーをそっと取り外し、1 分待ちます。(または、ドライバーのような金属物体を使用してバッテリーホルダの+と-の端子に触れ、5 秒間ショートさせます。)
3. バッテリーを交換します。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータを再起動します。



- バッテリーを交換する前に、常にコンピュータの電源をオフにしてから電源コードを抜いてください。
- バッテリーを同等のバッテリーと交換します。バッテリーを正しくないモデルと交換すると、爆発する恐れがあります。
- バッテリーを自分自身で交換できない場合、またはバッテリーのモデルがはっきり分からない場合、購入店または販売店にお問い合わせください。
- バッテリーを取り付けるとき、バッテリーのプラス側 (+) とマイナス側 (-) の方向に注意してください (プラス側を上に向ける必要があります)。
- 使用済みのバッテリーは、地域の環境規制に従って処理してください。

第2章 BIOS セットアップ

BIOS セットアップ プログラムにアクセスするには、電源オン時の POST 中に <Delete> キーを押します。詳細な BIOS セットアップメニューオプションを表示するには、BIOS セットアッププログラムのメインメニューで <Ctrl> + <F1> を押します。

BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または @BIOS ユーティリティのいずれかを使用します。

- Q-Flash により、ユーザーはオペレーティング システムに入ることなく BIOS のアップグレードまたはバックアップを素早く簡単に行えます。
- @BIOS は、インターネットから BIOS の最新バージョンを検索しダウンロードするとともに BIOS を更新する Windows ベースのユーティリティです。

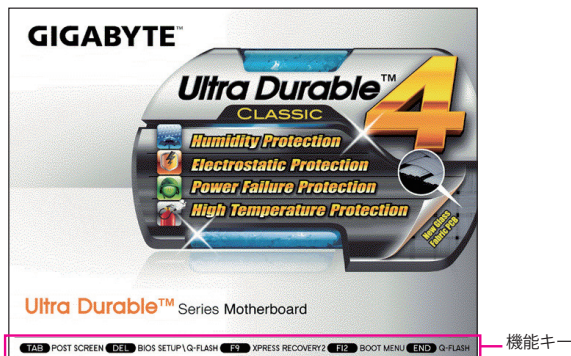


- BIOS フラッシュは潜在的に危険を伴うため、BIOS の現在のバージョンを使用しているときに問題が発生していない場合、BIOS をフラッシュしないことをお勧めします。BIOS のフラッシュは注意して行ってください。BIOS の不適切な更新は、システムの誤動作の原因となります。
- システムの不安定またはその他の予期しない結果を防ぐために、初期設定を変更しないことをお勧めします (必要な場合を除く)。誤った BIOS 設定しますと、システムは起動できません。そのようなことが発生した場合は、CMOS 値を既定値にリセットしてみてください。(CMOS 値を消去する方法については、この章の「Load Optimized Defaults」セクションまたは第1章にあるバッテリーまたは CMOS クリアジャンパの消去の概要を参照してください。)

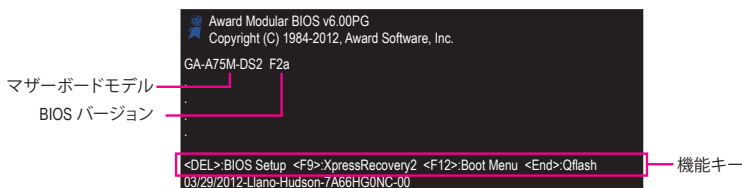
2-1 起動画面

コンピュータが起動するとき、以下のスクリーンが表示されます。

A. LOGO スクリーン (既定値):



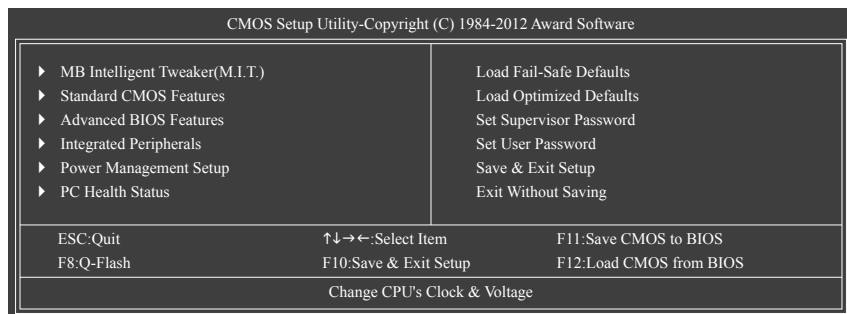
B. POST スクリーン



2-2 メインメニュー

BIOS セットアッププログラムに入ると、(以下に表示されたように) メインメニューがスクリーンに表示されます。矢印キーでアイテム間を移動し、<Enter>を押してアイテムを受け入れるか、サブメニューに入ります。

(サンプル BIOS バージョン:F2a)



- メインメニューまたはサブメニューに目的の設定が見つからない場合、<Ctrl>+<F1>を押して詳細オプションにアクセスします。
- システムが安定しないときは、**Load Optimized Defaults** を選択してシステムをその既定値に設定します。
- 本章で説明された BIOS セットアップメニューは参考用です、項目は、BIOS のバージョンにより異なります。

■ <F11> および <F12> キーの機能 (メインメニューの場合のみ)

▶ F11:Save CMOS to BIOS

この機能により、現在の BIOS 設定をプロファイルに保存できるようになります。最大 8 つのプロファイル (プロファイル 1-8) を作成し、各プロファイルに名前を付けることができます。まず、プロファイル名を入力し (デフォルトのプロファイル名を消去するには、SPACE キーを使用します)、次に <Enter> を押して完了します。

▶ F12:Load CMOS from BIOS

システムが不安定になり、BIOS の既定値設定をロードした場合、この機能を使用して前に作成されたプロファイルから BIOS 設定をロードすると、BIOS 設定をわざわざ設定しなおす煩わしさを避けることができます。まず、ロードするプロファイルを選択し、次に <Enter> を押して完了します。

2-3 MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2012 Award Software MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)			
▶ IGX Configuration	[Press Enter]		Item Help
CPU Clock Ratio	[Auto]	2400Mhz	Menu Level ▶
CPU NB Clock Divisor	[Auto]		
Core Performance Boost ^(注)	[Enabled]		
CPB Ratio ^(注)	[Auto]	2400Mhz	
CPU Host Clock Control	[Auto]		
x CPU Host Clock	100		
DRAM E.O.C.P	[Disabled]		
Set Memory Clock	[Auto]		
x Memory Clock	x6.66	1333Mhz	
▶ DRAM Configuration	[Press Enter]		
***** System Voltage Optimized *****			
System Voltage Control	[Auto]		
x DDR3 Voltage	Auto		
x CPU Voltage Control	Auto		
x CPU NB VID Control	Auto		
Normal CPU Vcore	1.3750V		
Normal CPU Vcore NB	1.0500V		
↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults			



システムがオーバークロック設定で安定して動作しているかどうかは、システム全体の設定によって異なります。オーバークロック設定を間違えて設定して動作させるとCPU、チップセット、またはメモリが損傷し、これらのコンポーネントの耐久年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果を招く場合があるため、既定値設定を変更しないことをお勧めします。(誤ったBIOSを設定しますと、システムは起動できません。そのような場合は、CMOS値を消去して既定値にリセットしてみてください。)

IGX Configuration

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2012 Award Software IGX Configuration			
Internal Graphics Mode	[UMA]		Item Help
UMA Frame Buffer Size	[Auto]		Menu Level ▶▶
x Surround View	[Disabled]		
VGA Core Clock control	[Auto]		
x VGA Core Clock(MHz)	444		
↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults			

Internal Graphics Mode

オンボードグラフィックスコントローラに対してシステムメモリを割り当てるかどうかを決定します。

- ▶▶ Disabled オンボードグラフィックスコントローラを無効にします。
- ▶▶ UMA システムメモリからオンボードグラフィックスコントローラに対してメモリを割り当てます。(既定値)

UMA Frame Buffer Size

フレームバッファサイズは、オンボードグラフィックスコントローラに対してのみ割り当てられたシステムメモリの合計量です。例えば、MS-DOSはディスプレイに対してこのメモリのみを使用します。オプション: Auto (既定値)、256MB、512MB、1024 MB。

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。

- **Surround View**
Surround View機能の有効/無効を切り替えます。このオプションは、**Advanced BIOS Features**の下で**Init Display First**が**PEG**に設定され、AMD/ATIグラフィックスカードが搭載されている場合のみ構成可能です。(既定値: Disabled)
- **VGA Core Clock control**
VGA Core クロックの制御の有効/無効を切り替えます。(既定値: Auto)
- **VGA Core Clock(MHz)**
VGA Core クロックを手動で設定します。調整可能な範囲は 300 MHz~2000 MHz の間です。**VGA Core Clock control**オプションが**Manual**に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。
- **CPU Clock Ratio**
取り付けた CPU のクロック比を変更します。調整可能範囲は、取り付ける CPU によって異なります。
- **CPU NB Clock Divisor** (注)
CPUノースブリッジ周波数除数を設定します。
- **Core Performance Boost** (注)
コアパフォーマンスブースト (CPB)技術、CPUパフォーマンスブースト技術を有効にするかどうかを決定します。(既定値: Enabled)
- **CPB Ratio** (注)
CPBの速度を変更します。調整可能範囲は、取り付ける CPU によって異なります。(既定値: Auto)
- **CPU Host Clock Control**
調整可能範囲は、取り付けられるCPUによって異なります。**Auto** (既定値) では、BIOS が CPU ホスト周波数を自動的に調整します。**Manual** にすると、以下の **CPU Frequency (MHz)** 項目を構成できるようになります。
注: オーバークロックの後システムが起動に失敗した場合、20 秒待ってシステムを自動的に再起動するか、または CMOS 値を消去してボードを既定値にリセットします。
- **CPU Host Clock**
CPUホスト周波数を手動で設定します。**CPU Host Clock Control** が**Manual**に設定されているときのみ、このオプションを構成できます。**重要:** CPU仕様に従ってCPU周波数を設定することを強くお勧めします。
- **DRAM E.O.C.P**
最適のオーバークロッキングパフォーマンスを達成するために、プリセットされたメモリオーバークロッキングプロファイルを使用するかどうかを決定できます。(既定値: Disabled)
- **Set Memory Clock**
メモリクロックを手動で設定するかどうかを決定します。**Auto** では、BIOS は必要に応じてメモリクロックを自動的に設定します。**Manual** にすると、以下のメモリクロックコントロール項目をすべて構成できます。(既定値: Auto)
- **Memory Clock**
Set Memory Clock が **Manual** に設定されているときのみ、このオプションを構成できます。
オプション: X5.33、X6.66、X8.00、と X9.33。

(注) この機能をサポートする CPU を取り付けられている場合のみ、この項目が表示されます。

DRAM Configuration

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2012 Award Software
DRAM Configuration

DDR3 Timing Items		[Auto]	SPD	Auto	Item Help
x	1T/2T Command Timing	Auto	--	--	Menu Level ▶
x	CAS# latency	Auto	9T	9T	
x	RAS to CAS R/W Delay	Auto	9T	9T	
x	Row Precharge Time	Auto	9T	9T	
x	Minimum RAS Active Time	Auto	24T	24T	
x	TwTr Command Delay	Auto	5T	5T	
x	Trfc0 for DIMM2	Auto	110ns	110ns	
x	Trfc1 for DIMM1	Auto	--	--	
x	Write Recovery Time	Auto	10T	10T	
x	Precharge Time	Auto	5T	5T	
x	Row Cycle Time	Auto	33T	33T	
x	RAS to RAS Delay	Auto	4T	4T	
x	Four Bank Activate Window	Auto			
DCTs Drive Strength			DCT0	DCT1	
	ProcOdt(ohms)	[Auto]	60	[Auto]	
	DQS Drive Strength	[Auto]	1.0x	[Auto]	1.0x
	Data Drive Strength	[Auto]	1.0x	[Auto]	1.0x
	MEMCLK Drive Strength	[Auto]	1.25x	[Auto]	1.25x

↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2012 Award Software
DRAM Configuration

Addr/Cmd Drive Strength		[Auto]	1.5x	[Auto]	1.5x	Item Help
	CS/ODT Drive Strength	[Auto]	1.5x	[Auto]	1.5x	Menu Level ▶
	CKE Drive Strength	[Auto]	1.5x	[Auto]	1.5x	
DCTs Addr/Cmd Timing			DCT0	DCT1		
	Addr/Cmd Setup Time	[Auto]	1T	[Auto]	1/2T	
	Addr/Cmd Fine Delay	[Auto]	22/64	[Auto]	0/64	
	CS/ODT Setup Time	[Auto]	1/2T	[Auto]	1/2T	
	CS/ODT Fine Delay	[Auto]	0/64	[Auto]	0/64	
	CKE Setup Time	[Auto]	1/2T	[Auto]	1/2T	
	CKE Fine Delay	[Auto]	0/64	[Auto]	0/64	
Bank Interleaving		[Enabled]				

↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults

DDR3 Timing Items

Manual にすると、以下のDDR3タイミング項目をすべて構成できます。
オプション：Auto (既定値)、Manual (手動)。

1T/2T Command Timing

オプション：Auto (既定値)、1T、2T。

CAS# latency

オプション：Auto (既定値)、5T~14T。

RAS to CAS R/W Delay

オプション：Auto (既定値)、5T~14T。

Row Precharge Time

オプション：Auto (既定値)、5T~14T。

- ☞ **Minimum RAS Active Time**
オプション：Auto（既定値）、15T~36T。
- ☞ **TwTr Command Delay**
オプション：Auto（既定値）、4T~8T。
- ☞ **Trfc0 for DIMM2**
オプション：Auto（既定値）、90ns、110ns、160ns、300ns、350ns。
- ☞ **Trfc1 for DIMM1**
オプション：Auto（既定値）、90ns、110ns、160ns、300ns、350ns。
- ☞ **Write Recovery Time**
オプション：Auto（既定値）、5T~8T、10T~16T。
- ☞ **Precharge Time**
オプション：Auto（既定値）、4T~8T。
- ☞ **Row Cycle Time**
オプション：Auto（既定値）、20T~54T。
- ☞ **RAS to RAS Delay**
オプション：Auto（既定値）、4T~8T。
- ☞ **Four Bank Activate Window**
オプション：Auto（既定値）、16T~40T。

****DCts Drive Strength****

- ☞ **ProcOdt(ohms)**
オプション：Auto（既定値）、240、120、80、60。
- ☞ **DQS Drive Strength**
オプション：Auto（既定値）、0.75x、1.0x、1.25x、1.5x。
- ☞ **Data Drive Strength**
オプション：Auto（既定値）、0.75x、1.0x、1.25x、1.5x。
- ☞ **MEMCLK Drive Strength**
オプション：Auto（既定値）、0.75x、1.0x、1.25x、1.5x。
- ☞ **Addr/Cmd Drive Strength**
オプション：Auto（既定値）、1.0x、1.25x、1.5x、2.0x。
- ☞ **CS/ODT Drive Strength**
オプション：Auto（既定値）、1.0x、1.25x、1.5x、2.0x。
- ☞ **CKE Drive Strength**
オプション：Auto（既定値）、1.0x、1.25x、1.5x、2.0x。

****DCts Addr/Cmd Timing****

- ☞ **Addr/Cmd Setup Time**
オプション：Auto（既定値）、1/2T、1T。
- ☞ **Addr/Cmd Fine Delay**
オプション：Auto（既定値）、0/64~31/64。
- ☞ **CS/ODT Setup Time**
オプション：Auto（既定値）、1/2T、1T。
- ☞ **CS/ODT Fine Delay**
オプション：Auto（既定値）、0/64~31/64。
- ☞ **CKE Setup Time**
オプション：Auto（既定値）、1/2T、1T。

☞ **CKE Fine Delay**

オプション: Auto (既定値)、0/64~31/64。

☞ **Bank Interleaving**

メモリバンクのインターリーピングの有効/無効を切り替えます。**Enabled**化すると、システムはメモリのさまざまなバンクに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。(既定値: Enabled)

***** System Voltage Optimized *****

☞ **System Voltage Control**

システム電圧を手動で設定するかどうかを決定します。**Auto** では、BIOS は必要に応じてシステム電圧を自動的に設定します。**Manual** にすると、以下の電圧コントロール項目をすべて構成できます。(既定値: Auto)

☞ **DDR3 Voltage**

メモリ電圧を設定します。

▶▶ Normal 必要に応じて、メモリ電圧を供給します。(既定値)

▶▶ 1.100V ~ 1.900V 調整可能な範囲は 1.100V ~ 1.900V の間です。

注: メモリ電圧を上げると、メモリが損傷したり、メモリの耐用年数が減少する原因となります。

☞ **CPU Voltage Control**

CPU電圧を設定します。

▶▶ Normal 必要に応じて、CPU電圧を供給します。(既定値)

▶▶ 1.4000V ~ 1.7000V 調整可能な範囲は 1.4000V ~ 1.7000V の間です。

☞ **CPU NB VID Control**

CPU ノースブリッジ VID 電圧を設定します。

▶▶ Normal 必要に応じて、CPU NB VID電圧を供給します。(既定値)

▶▶ 1.1125V ~ 1.4125V 調整可能な範囲は 1.1125V ~ 1.4125V の間です。

☞ **Normal CPU Vcore**

CPUのノーマルの動作圧力を表示します。

☞ **Normal CPU Vcore NB**

CPUノースブリッジのノーマルの動作圧力を表示します。

2-4 Standard CMOS Features

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2012 Award Software Standard CMOS Features		
Date (mm:dd:yy)	Wed, Jul 20 2012	Item Help
Time (hh:mm:ss)	22:31:24	Menu Level ▶
▶ IDE Channel 0 Master	[None]	
▶ IDE Channel 0 Slave	[None]	
▶ IDE Channel 1 Master	[None]	
▶ IDE Channel 1 Slave	[None]	
Halt On	[All, But Keyboard]	
Base Memory	640K	
Extended Memory	941M	
↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

☞ Date (mm:dd:yy)

システムの日付を設定します。

☞ Time (hh:mm:ss)

システムの時間を設定します。

☞ IDE Channel 0, 1 Master/Slave

▶▶ IDE HDD Auto-Detection

<Enter> を押して、このチャンネルの SATA デバイスのパラメータを自動検出します。

▶▶ IDE Channel 0, 1 Master/Slave

以下の2つの方法のうちどれか1つをつかって、SATAデバイスを構成します:

- Auto POST中に、BIOSにより SATA デバイスが自動的に検出されます。(既定値)
- None SATA デバイスが使用されていない場合、このアイテムを **None** に設定すると、システムはPOST中にデバイスの検出をスキップしてシステムの起動を高速化します。

▶▶ Access Mode ハードドライブのアクセスモードを設定します。オプション: Auto (既定値)、CHS、LBA、Large。

☞ Halt On

システムが POST 中にエラーに対して停止するかどうかを決定します。
オプション: 「All Errors,」 「No Errors,」 「All, But Keyboard」。(既定値)

☞ Memory

これらのフィールドは読み込み専用で、BIOS POST で決定されます。

2-5 Advanced BIOS Features

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2012 Award Software			
Advanced BIOS Features			
▶ IGX Configuration	[Press Enter]	Item Help	
Load Line Control	[Auto]	Menu Level ▶	
AMD C6 Support	[Disabled]		
Virtualization	[Disabled]		
AMD K8 Cool&Quiet control	[Auto]		
C-state Pmin	[Auto]		
▶ Hard Disk Boot Priority	[Press Enter]		
EFI CD/DVD Boot Option	[Auto]		
First Boot Device	[Hard Disk]		
Second Boot Device	[CDROM]		
Third Boot Device	[USB-HDD]		
Password Check	[Setup]		
HDD S.M.A.R.T.Capability	[Disabled]		
Away Mode	[Disabled]		
Full Screen LOGO Show	[Enabled]		
Init Display First	[PEG]		
↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults			

IGX Configuration

このサブメニューで行った設定は、**MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)**メインメニューの同じ項目で行った設定に同期します。

Load Line Control

ロードライン制御の有効/無効を切り替えます。このアイテムでは、さまざまなレベルで Vdroop を調整します。この機能を有効にすると、CPU 負荷の軽重にかかわらず CPU 電圧が一定になるようにロードライン制御を調整できます。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

AMD C6 Support

システムが停止状態になっているとき、CPU が C6 モードに入るかどうかを決定します。有効になっているとき、CPU コア周波数はシステムの停止状態の間削減され、消費電力を抑えます。C6 状態は、C1 より省電力状態はるかに強化されています。(既定値: Disabled)

Virtualization

Virtualizationでは、プラットフォームが独立したパーティションで複数のオペレーティングシステムとアプリケーションを実行します。仮想化では、1つのコンピュータシステムが複数の仮想化システムとして機能できます。

(既定値: Disabled)

☞ **AMD K8 Cool&Quiet control**

- ▶▶ Auto AMD Cool'n'QuietドライブではCPUとVIDをダイナミックに調整し、コンピュータからの熱出力とその消費電力を減少します。(既定値)
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。

 C-state Pmin

システムが停止状態になっているとき、CPUがC1Eモードに入るかどうかを決定します。有効になっているとき、消費電力を削減するためシステム停止状態の間CPUコア周波数は低下します。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

Hard Disk Boot Priority

取り付けられたハードドライブからオペレーティングシステムをロードする順序が指定されます。上または下矢印キーを使用してハードドライブを選択し、次にプラスキー <+> (または <PageUp>) またはマイナスキー <-> (または <PageDown>) を押してリストの上または下に移動します。このメニューを終了するには、<Esc>を押します。

➤ **EFI CD/DVD Boot Option**

2.2 TB以上の容量のハードドライブにオペレーティングシステムをインストールする場合、このアイテムを **EFI** に設定します。インストールするオペレーティングシステムが Windows 7 64-bit and Windows Server 2003 64 ビットなどの、GPT パーティションからの起動をサポートしていることを確認してください。**Auto**では、BIOS が取り付けるハードドライブに従ってこの設定を自動的に構成します。(既定値: Auto)

➤ **First/Second/Third Boot Device**

使用可能なデバイスから起動順序を指定します。上または下矢印キーを使用してデバイスを選択し、<Enter>を押して受け入れます。オプション: LS120、Hard Disk、CDROM、ZIP、USB-FDD、USB-ZIP、USB-CDROM、USB-HDD、Legacy LAN、Disabled。

➤ **Password Check**

パスワードは、システムが起動するたびに必要か、または BIOS セットアップに入る時のみ必要かを指定します。このアイテムを設定した後、BIOS メインメニューの **Set Supervisor/ User Password** アイテムの下でパスワードを設定します。

➤ Setup パスワードは BIOS セットアッププログラムに入る際にのみ要求されます。
(既定値)

➤ System パスワードは、システムを起動したり BIOS セットアッププログラムに入る際に要求されます。

➤ **HDD S.M.A.R.T.Capability**

ハードドライブの S.M.A.R.T. (セルフモニタリング・アナリシス・アンド・リポーティング・テクノロジー) 機能の有効/無効を切り換えます。この機能により、システムはハードドライブの読み込み/書き込みエラーを報告し、サードパーティのハードウェアモニタユーティリティがインストールされているとき、警告を発行することができます。(既定値: Disabled)

➤ **Away Mode**

Windows XP Media Center オペレーティングシステムで Away Mode の有効/無効を切り替えます。Away Mode により、システムはオフになっているように見える低出力モードに入っている間に、実行されていないタスクをサイレントに実行します。(既定値: Disabled)

➤ **Full Screen LOGO Show**

システム起動時に、GIGABYTE ロゴを表示するかどうかを決定します。**Disabled** では、標準の POST メッセージが表示されます。(既定値: Enabled)

➤ **Init Display First**

取り付けた PCI グラフィックスカード、PCI Express グラフィックスカード、またはオンボード VGA から、最初に呼び出すモニタディスプレイを指定します。

➤ Onboard 最初のディスプレイとしてオンボードグラフィックスを設定します。

➤ PCI Slot 最初のディスプレイとして PCI グラフィックスカードを設定します。

➤ PEG 最初のディスプレイとして、PCIEX16 スロットで PCI Express グラフィックスカードを設定します。(既定値)

2-6 Integrated Peripherals

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2012 Award Software					
Integrated Peripherals					
OnChip SATA Controller		[Enabled]	Item Help		
OnChip SATA Type		[Native IDE]	Menu Level ▶		
x	OnChip SATA Port as ESP	Press Enter			
Onboard LAN Function		[Enabled]			
Onboard LAN Boot ROM		[Disabled]			
▶	SMART LAN	[Press Enter]			
Onboard Audio Function		[Enabled]			
Onchip USB 3.0 Controller		[Enabled]			
USB Controllers		[Enabled]			
USB Legacy Function		[Enabled]			
USB Storage Function		[Enabled]			
↑↓←→:Move		Enter:Select	+/-/PU/PD:Value	F10:Save	ESC:Exit
F5:Previous Values			F6:Fail-Safe Defaults		F1:General Help
					F7:Optimized Defaults

☞ **OnChip SATA Controller**

統合されたSATAコントローラの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

☞ **OnChip SATA Type**

統合された SATA コネクタの動作モードを構成します。

- ▶ Native IDE SATA コントローラが Native IDE モードで動作します。(既定値)
ネイティブモードをサポートするオペレーティングシステムをインストールする場合、Native IDE モードを有効にします。
- ▶ RAID SATAコントローラに対してRAIDを有効にします。
- ▶ AHCI SATA コントローラを AHCI モードに構成します。Advanced Host Controller Interface (AHCI) は、ストレージドライバが NCQ (ネイティブ・コマンド・キューイング) およびホットプラグなどのアドバンスドシリアルATA機能を有効にできるインターフェイス仕様です。

☞ **OnChip SATA Port as ESP**

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2012 Award Software					
OnChip SATA Port as ESP					
Port0 as ESP	[Disabled]	Item Help Menu Level ▶▶			
Port1 as ESP	[Disabled]				
Port2 as ESP	[Disabled]				
Port3 as ESP	[Disabled]				
↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults					

☞ **Port0 as ESP/Port1 as ESP/Port2 as ESP/Port3 as ESP**

OnChip SATA Type がAHCIに設定されているときのみ、このオプションを設定できます。**Enabled** では、接続されたSATAデバイスのホットプラグ検出をスピードアップします。(既定値: Disabled)

☞ **Onboard LAN Function**

オンボードLAN機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
オンボードLANを使用する代わりに、サードパーティ製アドインネットワークカードをインストールする場合、この項目を**Disabled**に設定します。

☞ **Onboard LAN Boot ROM**

オンボードLANチップに統合されたブートROMを有効にするかどうかを判断します。(既定値: Disabled)

☞ **SMART LAN (LAN ケーブル診断機能)**

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2012 Award Software					
SMART LAN					
Start detecting at Port.....					Item Help Menu Level ▶▶
Part1-2 Status = Open / Length = 0m					
Part3-6 Status = Open / Length = 0m					
Part4-5 Status = Open / Length = 0m					
Part7-8 Status = Open / Length = 0m					
↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults					

このマザーボードは、取り付けたLANケーブルのステータスを検出するために、ケーブル診断機能を組み込んでいます。この機能はケーブル布線問題を検出し、障害またはショート箇所までの適切な距離を報告します。

➤ **Onboard Audio Function**

オンボードオーディオ機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

オンボードオーディオを使用する代わりに、サードパーティ製アドインオーディオカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。

➤ **Onchip USB 3.0 Controller**

オンボード USB 3.0 コントローラの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

➤ **USB Controllers**

統合された USB コントローラの有効/無効を切り換えます。(既定値: Enabled)

Disabled は、以下の USB 機能をすべてオフにします。

➤ **USB Legacy Function**

MS-DOS で USB キーボードを使用できるようにします。(既定値: Enabled)

➤ **USB Storage Function**

POST の間 USB フラッシュドライブや USB ハードドライブを含め、USB ストレージデバイスを検出するかどうかを決定します。(既定値: Enabled)

2-7 Power Management Setup

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2012 Award Software		
Power Management Setup		
Soft-Off by Power button	[Instant-off]	Item Help Menu Level ▶
USB Wake Up from S3	[Enabled]	
Modem Ring Resume	[Disabled]	
PME Event Wake Up	[Enabled]	
HPET Support (⌘)	[Enabled]	
Power On By Mouse	[Disabled]	
Power On By Keyboard	[Disabled]	
x KB Power ON Password	Enter	
AC Back Function	[Soft-Off]	
Power-On by Alarm	[Disabled]	
x Date (of Month)	Everyday	
x Resume Time (hh:mm:ss)	0 : 0 : 0	
ErP Support	[Disabled]	
↑↓←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help		
F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

➤ **Soft-Off by Power button**

電源ボタンで MS-DOS モードのコンピュータの電源をオフにする方法を設定します。

▶▶ **Instant-Off** 電源ボタンを押すと、システムの電源は即時にオフになります。(既定値)

▶▶ **Delay 4 Sec.** パワーボタンを 4 秒間押し続けると、システムはオフになります。パワーボタンを押して 4 秒以内に放すと、システムはサスペンドモードに入ります。

➤ **USB Wake Up from S3**

USB デバイスからの呼び起こし信号により、ACPI S3 スリープ状態からシステムを呼び起こします。(既定値: Enabled)

➤ **Modem Ring Resume**

呼び起こし機能をサポートするモデムからの呼び起こし信号によって、ACPI スリープ状態からシステムを呼び起こします。(既定値: Disabled)

(注) Windows 7/Vista オペレーティングシステムでのみサポートされます。

☞ **PME Event Wake Up**

PCI または PCIe デバイスからの呼び起こし信号により、ACPI スリープ状態からシステムを呼び起こします。注：この機能を使用するには、+5VSB リードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。(既定値：Enabled)

☞ **HPET Support** (注)

Windows7/Vista の High Precision Event Timer (HPET) の有効/無効を切り替えます。
(既定値：Enabled)

☞ **Power On By Mouse**

PS/2 マウス呼び起こしイベントにより、システムをオンにします。

注：この機能を使用するには、+5VSB リードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)

▶ Double Click PS/2 マウスの左ボタンをダブルクリックすると、システムのパワーがオンになります。

☞ **Power On By Keyboard**

PS/2 キーボードの呼び起こし イベントによりシステムの電源をオンにすることが可能です。

注：+5VSB のラインで 1A 以上を提供する ATX 電源装置が必要です。

▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)

▶ Password 1-5 文字でシステムをオンスするのためのパスワードを設定します。

▶ Any KEY キーボードのどれかのキーを押してシステムをオンにします。

▶ Keyboard 98 Windows 98 キーボードの POWER ボタンを押してシステムの電源をオンにします。

☞ **KB Power ON Password**

Power on by Keyboard が **Password** に設定されているとき、パスワードを設定します。このアイテムで <Enter> を押して 5 文字以内でパスワードを設定し、<Enter> を押して受け入れます。システムをオンにするには、パスワードを入力し <Enter> を押します。

注：パスワードをキャンセルするには、このアイテムで <Enter> を押します。パスワードを求められたとき、パスワードを入力せずに <Enter> を再び押すとパスワード設定が消去されます。

☞ **AC Back Function**

AC 電源損失から電源復帰した後のシステム状態を決定します。

▶ Soft-Off AC 電力を回復した時点でも、システムはオフになっています。(既定値)

▶ Full-On AC 電力を回復した時点で、システムはオンになります。

▶ Memory AC 電源が戻ると、システムは既知の最後の稼働状態に戻ります。

☞ **Power-On by Alarm**

希望の時間に、システムの電源をオンにするかどうかを決定します。(既定値：Disabled)

有効になっている場合、以下のように日時を設定してください：

▶ Date (of Month) Alarm: ある月の毎日または特定の日の特定の時間にシステムをオンにします。

▶ Resume Time (hh: mm: ss): 自動的にシステムの電源がオンになる時間を設定します。

注：この機能を使う際は、オペレーティングシステムからの不適切なシャットダウンまたは AC 電源の取り外しを避けます。そうしない場合設定が有効にならないことがあります。

☞ **ErP Support**

S5 (シャットダウン) 状態の場合、システムで使用する電力を1W未満に抑えるかどうかを決定します。(既定値：Disabled)

注：この項目が **Enabled** に設定されているとき、次の機能は使用できなくなります：

PME イベント呼び起こし、マウスによる電源オン、キーボードによる電源オン、LAN 上での呼び起こし。

(注) Windows 7/Vista オペレーティングシステムでのみサポートされます。

2-8 PC Health Status

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 2004-2012 Award Software			
PC Health Status			
Hardware Thermal Control	[Enabled]	Item Help	
Reset Case Open Status	[Disabled]	Menu Level ▶	
Case Opened	No		
Vcore	1.364V		
DDR15V	1.536V		
+12V	11.950V		
VCC3	3.048V		
Current System Temperature	38°C		
Current CPU Temperature	36°C		
Current CPU FAN Speed	1962 RPM		
Current SYSTEM FAN Speed	0 RPM		
CPU Warning Temperature	[Disabled]		
CPU FAN Fail Warning	[Disabled]		
SYSTEM FAN Fail Warning	[Disabled]		
CPU Smart FAN Control	[Enabled]		
System Smart FAN Control	[Enabled]		
↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults			

👉 Hardware Thermal Control

CPU過熱保護機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、CPUが過熱すると、CPUコア電圧と速度が下がります。(既定値: Enabled)

Reset Case Open Status

前のシャーン侵入ステータスの記録を保存または消去します。**Enabled** では前のシャーン侵入ステータスのレコードを消去し、**Case Opened** フィールドが次に起動するとき「No」を表示します。(既定値: Disabled)

 Case Opened

マザーボードの CI ヘッドにアタッチされたシャーシ侵入検出デバイスの検出状態を表示します。システム シャーシのカバーが外れている場合、このフィールドが「Yes」になります。そうでない場合は「No」になります。シャーシへの侵入状態の記録を消去したい場合は、**Reset Case Open Status** を **Enabled** にして、設定を CMOS に保存してからシステムを再起動します。

 Current Voltage(V) Vcore/DDR15V/+12V/VCC3

現在のシステム電圧を表示します。

Current System/CPU Temperature

現在のシステム/CPU 温度を表示します。

 Current CPU/SYSTEM FAN Speed (RPM)

現在の CPU/システムファーン速度を表示します。

 CPU Warning Temperature

CPU温度警告のしきい値を設定します。CPUの温度がしきい値を超えた場合、BIOSが警告音を発します。オプション: Disabled (既定値)、60°C/140°F、70°C/158°F、80°C/176°F、90°C/194°F。

 CPU/SYSTEM FAN Fail Warning

CPU/システムファンが接続されているか失敗したかで、システムは警告を出します。これが発生した場合、ファンの状態またはファンの接続を確認してください。(既定値: Disabled)

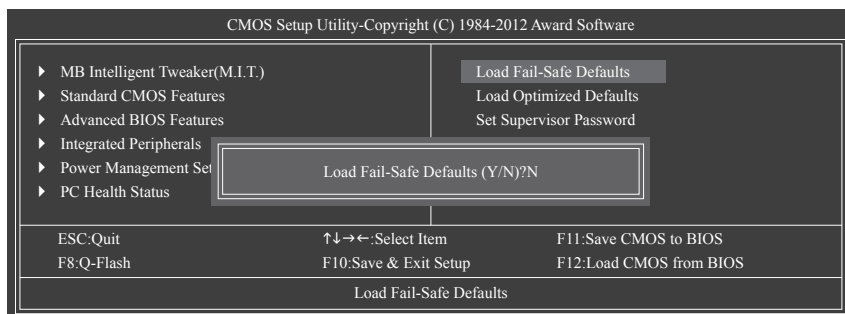
 CPU Smart FAN Control

CPU ファン速度のコントロールの有効/無効を切り替えます。**Enabled**にすると、CPU ファンはCPU 温度によって異なる速度で作動できます。システム要件に基づいて、EasyTuneでファン速度を調整します。無効にすると、CPU ファンは全速で作動します。(既定値: Enabled)

System Smart FAN Control

システムファンの速度コントロール機能の有効/無効を切り替えます。**Enabled**では、システム温度に従って異なる速度でシステムファンを動作します。無効の場合、システムファンは最高速度で動作します。(既定値: Enabled)

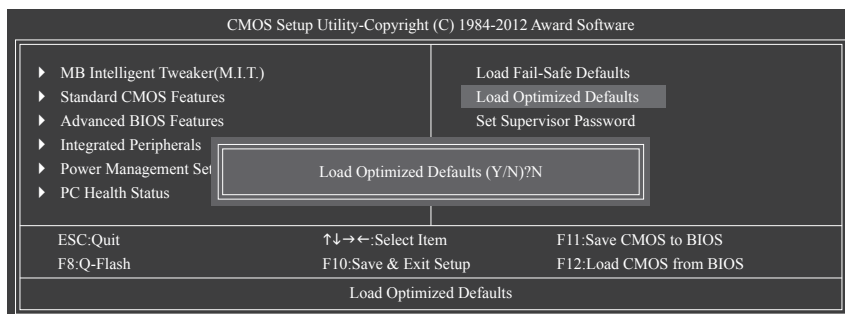
2-9 Load Fail-Safe Defaults



このアイテムで <Enter> を押し <Y> キーを押すと、もっとも安全な BIOS 既定値設定がロードされます。

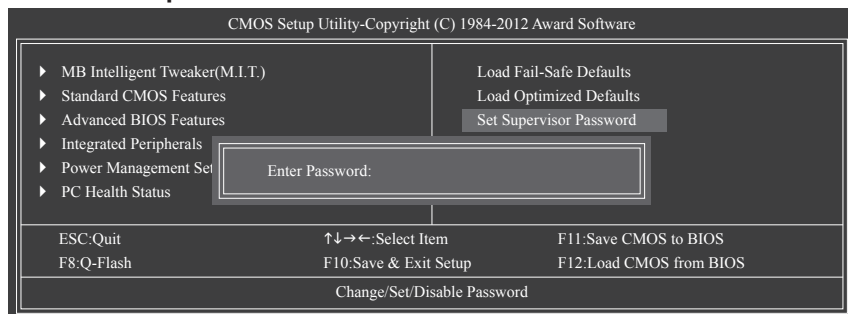
システムが不安定になった場合、マザーボードのもっとも安全でもっとも安定した BIOS 設定である、フェールセーフ既定値をロードしてください。

2-10 Load Optimized Defaults



このアイテムで <Enter> を押し <Y> キーを押すと、最適な BIOS 既定値設定がロードされます。BIOS の初期設定は、システムが最適な状態で稼働する手助けをします。BIOS のアップデート後または CMOS 値の消去後には必ず最適な初期設定を読み込みます。

2-11 Set Supervisor/User Password



このアイテムで <Enter> を押して 8 文字以内でパスワードを入力し、<Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。

BIOS セットアッププログラムでは、次の 2 種類のパスワード設定ができます：

➤ Supervisor Password

システムパスワードが設定され、**Advanced BIOS Features** で **Password Check** アイテムが **Setup** に設定されているとき、BIOS セットアップに入り、BIOS を変更するには、管理者パスワードを入力する必要があります。

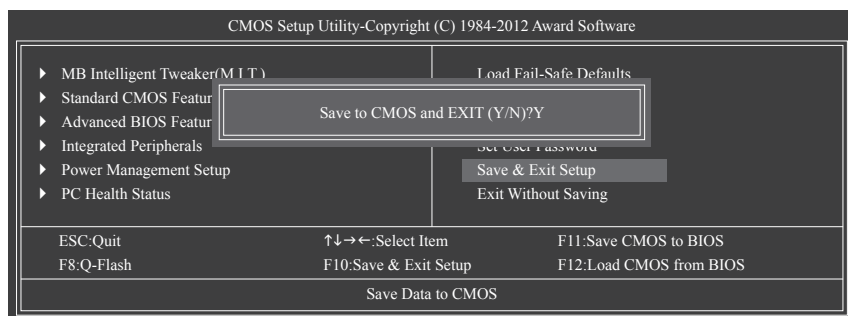
Password Check アイテムが **System** に設定されているとき、システム起動時および BIOS セットアップを入力するには、管理者パスワード (または、ユーザーパスワード) を入力する必要があります。

➤ User Password

Password Check アイテムが **System** に設定されているとき、システム起動時に管理者パスワード (または、ユーザーパスワード) を入力してシステムの起動を続行する必要があります。BIOS セットアップで、BIOS 設定を変更したい場合、管理者パスワードを入力する必要があります。ユーザーパスワードは、BIOS 設定を表示するだけで変更は行いません。

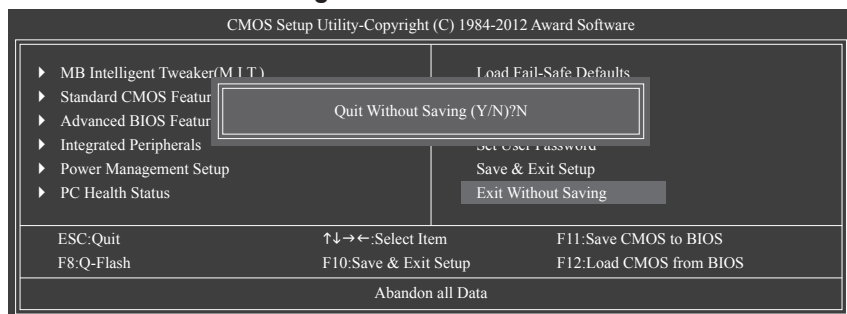
パスワードを消去するには、パスワードアイテムで <Enter> を押しパスワードを要求されたとき、<Enter> を再び押します。「PASSWORD DISABLED」というメッセージが表示され、パスワードがキャンセルされたことを示します。

2-12 Save & Exit Setup



このアイテムで <Enter> を押し、<Y> キーを押します。これにより、CMOS の変更が保存され、BIOS セットアッププログラムを終了します。<N> または <Esc> を押して、BIOS セットアップメインメニューに戻ります。

2-13 Exit Without Saving



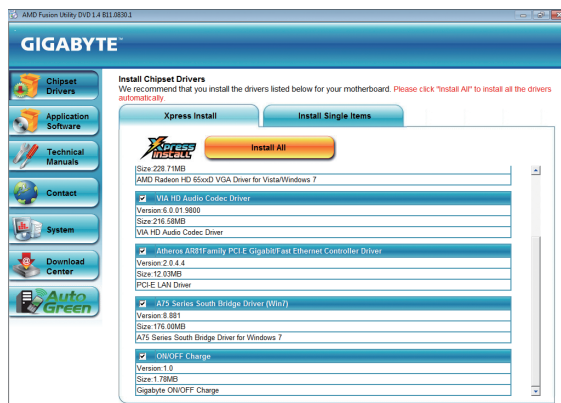
このアイテムで<Enter>を押し、<Y>キーを押します。これにより、CMOSに対して行われたBIOSセッティングへの変更を保存せずに、BIOSセッティングを終了します。<N>または<Esc>を押して、BIOSセッティングメインメニューに戻ります。

第3章 ドライバのインストール



- ドライバをインストールする前に、まずオペレーティングシステムをインストールします。
- オペレーティングシステムをインストールした後、マザーボードドライバを光学のドライブに挿入します。ドライバの自動実行画面は、以下のスクリーンショットのように、自動的に表示されます。(ドライバの自動実行画面が自動的に表示されない場合、マイコンピュータに移動し、光ドライブをダブルクリックし、**Run.exe** プログラムを実行します。)

ドライバディスクを挿入すると、「Xpress Install」がシステムを自動的にスキャンし、インストールに推奨されるすべてのドライバをリストアップします。**Install All** ボタンをクリックすると、「Xpress Install」が推奨されたすべてのドライバをインストールします。または、**Install Single Items** をインストールしてインストールするドライバを手動で選択します。



第4章 付録

4-1 SATA ハードドライブの設定

始める前に

以下を準備してください:

- 少なくとも2台の SATA ハードドライブ (最適のパフォーマンスを発揮するために、同じモデルと容量のハードドライブを2台使用することをお勧めします)。RAID を作成したくない場合、準備するハードドライブは1台のみで結構です。
- Windows 7/Vista/XP セットアップディスク。
- マザーボードドライバディスク。
- USBフロッピーディスクドライブ (Windows XP のインストールの間必要)
- 空のフォーマット済みフロッピーディスク (Windows XP のインストールの間必要)

オンボード SATA コントローラを設定する

A. コンピュータに SATA ハードドライブをインストールする

SATA 信号ケーブルの一方の端を SATA ハードドライブの背面に、もう一方の端をマザーボードの空いている SATA ポートに接続します。次に、電源装置からハードドライブに電源コネクタを接続します。

B. BIOS セットアップで SATA コントローラモードを設定する

SATA コントローラコードがシステム BIOS セットアップで正しく設定されていることを確認してください。BIOS セットアップメニューの場合、第2章「BIOS セットアップ」、「統合周辺機器」を参照してください。

ステップ:

1. コンピュータの電源をオンにし、POST (パワーオンセルフテスト) 中に <Delete> を押して BIOS セットアップに入ります。**OnChip SATA Controller** が有効になっていることを確認してください。RAID を有効にするには、**OnChip SATA Type** を RAID に設定します。変更を保存し BIOS セットアップを終了します。



このセクションで説明した BIOS セットアップメニューは、マザーボードの正確な設定によって異なることがあります。表示される実際の BIOS セットアップオプションは、お使いのマザーボードおよび BIOS バージョンによって異なります。

C. RAID BIOS で RAID セットを構成する

RAID BIOS セットアップユーティリティに入って、RAID アレイを設定します。POST メモリテストが開始された後でオペレーティングシステムがブートを開始する前に、「Press <Ctrl-F> to enter RAID Option ROM Utility」。<Ctrl> + <F> を押して RAID BIOS セットアップユーティリティに入ります。アレイを作成するには、<2> を押して **LD View/LD Define Menu** ウィンドウに入ります。アレイを作成するには、<Ctrl> + <C> を押して **LD Define Menu** に入ります。詳細な設定を行うには、**LD Define Menu** で、上または下矢印キーを使用してアイテムに移動します。次の手順では、例として RAID 0 を作成します。

ステップ:

1. **RAID Mode** セクション下で、<SPACE> キーを押して **RAID 0** を選択します。
2. **Stripe Block** サイズを設定します。既定値は **64 KB** です。
3. **Drives Assignments** セクション下で、上または下矢印キーを押してドライブをハイライトします。
4. <SPACE> キーまたは <Y> を押して **Assignment** オプションを **Y** に変更します。このアクションで、ディスクアレイにドライブが追加されます。**Drv** セクションでは、割り当てられたディスク数が表示されます。

5. <Ctrl>+<Y> キーを押して情報を保存します。図 1 のメッセージが表示されます。<Ctrl>+<Y> を押して矢印名を入力します。矢印名を入力しない場合、既定値の矢印名が使用されます。

Please press Ctrl-Y key to input the LD Name
or press any key to exit.
If you do not input any LD name, the default
LD name will be used.

図 1

6. 次のメッセージが表示されたら、<Ctrl>+<Y> を押して MBR を消去するか、他のキーを押してこのオプションを無視します。

Fast Initialization Option has been selected
It will erase the MBR data of the disk.
<Press Ctrl-Y Key if you are sure to erase it>
<Press any other key to ignore this option>

図 2

7. 図 8 のメッセージが表示されます。<Ctrl>+<Y> を押して RAID アレイの容量を設定するか、他のキーを押してアレイをその最大容量に設定します。

Press Ctrl-Y to Modify Array Capacity or press any
other key to use maximum capacity...

図 3

8. 作成が完了すると、画面が **LD View Menu** に戻り、新たに作成されたアレイが表示されます。
9. RAID BIOS ユーティリティを終了する場合、<Esc> を押して **Main Menu** に戻り <Esc> を再び押します。

SATA RAID/AHCI ドライバディスクを作成する

OS インストールの間、ドライバを含むフロッピーディスクから SATA RAID/AHCI ドライバをインストールする必要があるため、Windows XP をインストールする前に、まず USB フロッピーディスクドライブをコンピュータに接続してください。Windows XP 用の RAID/AHCI ドライバをコピーするには、マザーボードドライバディスクの \BootDrv\Hxp フォルダのすべてのファイルをフロッピーディスクにコピーします。

SATA RAID/AHCI ドライバとオペレーティングシステムをインストールする

A. Windows XP のインストール

システムを再起動して Windows XP セットアップディスクから起動し、「サードパーティ製 SCSI または RAID ドライバをインストールする必要がある場合 F6 を押してください」というメッセージが表示されたら直ちに <F6> を押します。SATA RAID/AHCI ドライバを含むフロッピーディスクを挿入します。オンスクリーンの指示に従って、お使いのオペレーティングシステムに適合するドライバをインストールします。完了したら、Windows XP のインストールを続けます。

B. Windows 7/Vista のインストール

Windows 7/Vista セットアップディスクからブートするシステムを再起動し、標準の OS インストールステップを実行します。Load Driver を選択します。マザーボードドライバディスクを挿入し、ドライバの場所を閲覧します。オンスクリーンの指示に従ってドライバをロードします。Windows 7 のドライバの位置は次の通りです。

Windows 32 ビットの場合の RAID ドライバ: \BootDrv\Hw7\RAID\W7

Windows 64 ビットの場合の RAID ドライバ: \BootDrv\Hw7\RAID\W764A

Windows 32 ビットの場合の AHCI ドライバ: \BootDrv\Hw7\AHCI\W7

Windows 64 ビットの場合の AHCI ドライバ: \BootDrv\Hw7\AHCI\W764A

(注: LH/LH64A フォルダには、Windows Vista 32 ビット/64 ビット用ドライバが含まれています。)

ドライバをロードした後、OS のインストールを続けます。

4-2 規制声明

規制に関する注意

この文書は、当社の書面による許可なしにコピーできません、また内容を第三者への開示や不正な目的で使用することはできず、違反した場合は起訴されることになります。当社はここに記載されている情報は印刷時にすべての点で正確であるとし、しかしこのテキスト内の誤りまたは脱落に対してGIGABYTEは一切の責任を負いません。また本文書の情報は予告なく変更することがありますが、GIGABYTE社による変更の確約ではありません。

環境を守ることに對する当社の約束

高効率パフォーマンスだけでなく、すべてのGIGABYTEマザーボードはRoHS(電気電子機器に関する特定有害物質の制限)とWEEE(廃電気電子機器)環境指令、およびほとんどの主な世界的安全要件を満たしています。環境中に有害物質が解放されることを防ぎ、私たちの天然資源を最大限に活用するために、GIGABYTEではあなたの「耐用年数を経た」製品のほとんどの素材を責任を持ってリサイクルまたは再使用するための情報を次のように提供します。

RoHS(危険物質の制限)指令声明

GIGABYTE製品は有害物質(Cd、Pb、Hg、Cr+6、PBDE、PBB)を追加する意図はなく、そのような物質を避けています。部分とコンポーネントRoHS要件を満たすように慎重に選択されています。さらに、GIGABYTEは国際的に禁止された有毒化学薬品を使用しない製品を開発するための努力を続けています。

WEEE(廃電気電子機器)指令声明

GIGABYTEは2002/96/EC WEEE(廃電気電子機器)の指令から解釈されるように国の法律を満たしています。WEEE指令は電気電子デバイスとそのコンポーネントの取り扱い、回収、リサイクル、廃棄を指定します。指令に基づき、中古機器はマークされ、分別回収され、適切に廃棄される必要があります。

WEEE記号声明



以下に示した記号が製品にあるいは梱包に記載されている場合、この製品を他の廃棄物と一緒に廃棄してはいけません。代わりに、デバイスを処理、回収、リサイクル、廃棄手続きを行うために廃棄物回収センターに持ち込む必要があります。廃棄時に廃機器を分別回収またはリサイクルすることにより、天然資源が保全され、人間の健康と環境を保護するやり方でリサイクルされることが保証されます。リサイクルのために廃機器を持ち込むことのできる場所の詳細については、最寄りの地方自治体事務所、家庭ごみ廃棄サービス、また製品の購入店に環境に優しい安全なリサイクルの詳細をお尋ねください。

- 電気電子機器の耐用年数が過ぎたら、最寄りのまたは地域の回収管理事務所に「戻し」リサイクルしてください。
- 耐用年数を過ぎた製品のリサイクルや再利用についてさらに詳しいことをお知らせになりたい場合、製品のユーザーマニュアルに記載の連絡先にお問い合わせください。できる限りお客様のお力になれるように努めさせていただきます。

最後に、本製品の省エネ機能を理解して使用し、また他の環境に優しい習慣を身につけて、本製品購入したときの梱包の内装と外装(運送用コンテナを含む)をリサイクルし、使用済みバッテリーを適切に廃棄またはリサイクルすることをお勧めします。お客様のご支援により、当社は電気電子機器を製造するために必要な天然資源の量を減らし、「耐用年数の過ぎた」製品の廃棄のための埋め立てごみ処理地の使用を最小限に抑え、潜在的な有害物質を環境に解放せず適切に廃棄することで、生活の質の向上に貢献いたします。

[illegible]

[illegible]

[illegible]



連絡先

GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.

アドレス: No.6, Bao Chiang Road, Hsin-Tien Dist., New Taipei City 231, Taiwan

TEL: +886-2-8912-4000、ファックス: +886-2-8912-4003

技術および非技術。サポート(販売/マーケティング): <http://ggts.gigabyte.com.tw>

WEBアドレス(英語): <http://www.gigabyte.com>

WEBアドレス(中国語): <http://www.gigabyte.tw>

GIGABYTE Webサイトにアクセスし、Webサイトの右上にある言語リストで言語を選択することができます。

• GIGABYTEグローバルサービスシステム



技術的または技術的でない(販売/マーケティング) 質問を送信するには:

<http://ggts.gigabyte.com.tw>

にアクセスし、言語を選択してシステムに入ってください。